

◆評価委員指摘事項に関する追加回答

【評価委員 意見】

・「4」「49」「52」「59」 評価理由を変えていくべき。計画(目的)がそれぞれ異なる。

「4」については、単なる欠員補充ではない。

また、「49」採用だけでなく人事交流の内容が求められている。「59」民間登用は3になるのでは。

【回 答】

すでに提出している追加資料に追記(赤文字)

項目	内容	評価理由
4	法人の活動の中核を担う専門的な人材の安定的確保及び育成	退職等による欠員を確実に補充するとともに、新たに広報専従係長を採用した。コロナ禍で学会等の中止が続く中で、自然史・東洋陶磁・科学館・歴史博物館では、職員派遣を積極的に行い、人材育成・能力開発に努めることができたため。 【追記】本項目については、 <u>学芸職員についての実績にかかる自己評価を行った。</u> 独法化のメリットを最大限に活かして学芸員の採用を行うとともに、学芸員として必要なスキルアップのための研修や事業検討会について記載した。
49	職員の意欲及び能力を活かすため、必要な体制整備を図るとともに、職員の育成に取り組む。	4 月から、大阪歴史博物館及び中之島美術館に常勤新館長を配置するとともに、監事と全館長が出席する経営会議での議論や管理者層向けの研修を通じて、組織体制(ガバナンス)の強化を図った。 各館の総務課長・同係長の空席に新採の管理職を配することで、体制の強化を図った。また、技術部門においても、新たに建築及び電気職を採用し、体制を強化できたため。 【追記】本項目については、 <u>技術職員についての実績にかかる自己評価を行った。</u> これまで大阪市から派遣される職員によって担われていた部門について、法人として継続的な業務執行体制を確保すべく固有の職員を分野別(建築及び電気)に採用した。
52	法人の活動の中核を担う専門的な人材の安定的確保及び育成(再掲)	上記の「項目4」に加え、次の事務及び技術系職員を新たに採用することで、人材の安定的確保を図ることができたため。 民間管理職経験のある事務系課長1名(4月)、民間から実務経験のある事務系係長3名(1月)。 民間出身者を含む技術職員(建築・電気)各1名 【追記】本項目については、 <u>総務系職員についての実績にかかる自己評価を行った。</u>

		これまで機構発足後、館において未配置であったポストについて、各館の安定的な運営を実現するべく総務系職員を配置し、日々の館運営の基礎的な体制整備を実現した。
59	専門的な知識又は技能を有する民間の人材の登用	項目 4 及び 52 に記載した、民間出身の新たな人材 6 名を採用することができたため。 【追記】本項目については、<u>民間人材の登用についての実績</u>にかかる自己評価を行った。 R2年度においては事務・技術系職員を民間から 6 名登用した。また登用に当たっては、人材紹介等の手法を用いる等、独法化したメリットを最大限活用し、柔軟な募集活動を行った。

【その他質問、意見への回答】

項目	内容	指摘事項	回答
19	各館の建物及びその附帯設備等を有効活用した幅広い事業の実施	コメントに「実施なし」と記載しているのに、評価は”3”としているが、実施していないなら”2”ではないか？	機構評価欄は、各館で実施したことを丁寧に記載すべきだった。 各館での計画については、コロナの外的要因で実施できなかったが、コロナ禍の状況が落ち着いた時期(9月)に大阪クラシックの受入れ及び、それを実施したことを評価対象とした。
		大阪クラシックへの協力のほかも、総括としてももう少し記載すべき。ないのであれば3評価ではなく2が妥当では。	大阪クラシック以外の取り組みはできなかった。
20	広報の対象及び時機並びに媒体の特徴を捉えた迅速で柔軟な情報発信	科学館のサイエンスショー配信は広報になるのか	サイエンスショーそのものは、事業の1つであるが、それをウェブ上で公開することを材料に広報を行った。また、サイエンスショー自体が、宣伝材料であり、科学館の HP 閲覧の誘因、実際の来館誘致につながるものとする。
22	各館の枠を超えたマーケティングの実施及びその結果に基づく広報戦略の策定	・インバウンドはしばらく無理なので、計画の再考を。 ・ニーズ調査とマーケティングの違いも理解していないのだから、「1」では。	既出の評価項目(位置)修正に記載のとおり、中期計画にもとづき、各館の連携による広報活動等について記載している。 また、<u>機構評価の書き方が適切ではなかった。</u> 実際には、マーケティングにあたるものとして、チケット販売から分かる来館者属性、来館者アンケートなどから来館者状況を調査しつつ、コロナ禍

			による機構の取り組みについて、中期計画中に取り組む内容を各館との議論で洗い出し CRS 策定を行った。このCRSにより、コロナ禍の来館者落ち込みの回復、その後の来館者誘致に向けての解決を図っている。
35	こども向けワークシートの作成及びワークショップ等の実施	市美は実施していないため、基準で考えると1評価。そのため全体としても2評価とならざるを得ないのでは。	美術館の小学校の美術鑑賞授業、教育センターとの連携研修のように、コロナ禍の事情により <u>先方の都合</u> で中止になった事業については、代替もできないため機構としては「-」の考え方とした。歴史博物館のスタンプラリー等についても、感染症に対する来館者に対する安全確保の観点から実施できなかったが、事業内容を鑑みオンライン事業等何らかの実施ができた場合は、「3」評価とした。
36	教員等を対象とした研修及び教材の開発に係る支援の実施	項目 35 と同様、科学館は実施していないため、基準で考えると1評価。そのため全体としても2評価とならざるを得ないのでは。	<u>科学館の教員研修の記載は誤り。7月に約 20 日間、大阪市教員研修用専用のオンライン動画配信を実施した。</u> 他館においても、代替実施可能なものについて動画作成、画像のオープンデータ化などの取り組みで代替措置を講じ、それを評価した。 美術館はもともと計画がなかったため、評価からは除外する。
38	博物館等資料並びにその保管及び公衆の観覧等に関する教育及び普及の事業	評価結果は、単なる再掲ではないか。	本項目は、項目「13」と中期計画も同じ物であることから、評価結果を再掲したが、R3 年度は、中期目標にも照らし合わせ、評価を実施する。 なお、13としては、展示を見ることのできない状況下において、オンラインで展示場の様子を紹介したり、資料データをオンラインで公開することができたことを評価した。 38 については、上記取り組みを実施したことで、子どもたちへの学びへの門戸を開いたことや、教員に対して教材提供をできたと認識している。
41	ボランティア及びNPOの各館の活動への参画の促進	全体として、低調。 美術館のボランティアの記載がない。 科学館のボランティア活動は行っていないので「1」では。	美術館では、現在ボランティアがいらないため表記しなかったが、美術研究所での市民の活動内容を考慮し、次年度以降記載を検討する。 科学館については、「-」評価としてしまったが、「科学館大好きクラブ」がオンライン活動を行った

			ことから、その実施を考慮して「3」とすることができると考える。
43	さまざまな人々が自らの学習成果を活用して行う教育活動の機会の提供及びその奨励	ひどく投げやりな自己評価コメント。代替措置も積極的に講じられているとは見えない。	記述は、丁寧にすべきだった。 また、41 同様、コロナ禍での様々な団体との対面事業は、取組自体が難しかった。 外的な要因で実施できないものが発生したが、内容的に、単純にオンラインに切り替えればよいものではなく、その中でも実施した事業について評価し、「3」とした。
69	情報共有に必要なイントラネットをはじめとするICTの活用の促進	取組のアウトカムとして部分も記載してもらえば「4」で良いかと思う。	資料のペーパーレス化が進み、事務の準備が軽減し本来業務に努めることができた。また、オンライン会議が進むことで、議題・資料の共有化が効率的になり、議事の進行がスムーズになることで議論を深めることができるようになった。専用の端末を導入することで、情報を安全に管理しながら在宅勤務することが可能となり効率的・効果的に業務に従事できる環境整備ができた。また、コロナ禍における職員の感染の危険性を抑制することや、国・府の要請による人的接触の低減・人流抑制を図ることもできた。 これらの実施内容については年度計画に記載した計画を上回るスピードで実施することができた。
全般		計画がないところへの評価結果の記載はなぜか。	既出の説明資料のとおり、年度計画の記載の誤りがあったため、中期計画をもとに関係する項目を実施できた場合、評価を行った。
全般		「一」の取扱い。	既出の説明資料のとおり、各館の事情以前に、先方都合など明らかに外的要因で実施できなかった内容などについて評価対象外としたもの。